

2025～ 社会福祉原論	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	元村 智明	

■授業のテーマ

社会福祉学批判—社会福祉学と社会福祉実践への根源的問いかけ

■授業の目的

社会福祉学を人間と社会を対象とする学問分野と指定し、社会福祉学研究及び実践に関する用語や術語の吟味・再考を目的とし、多角的かつ批判的に考察します。

■授業の到達目標

社会福祉学研究と社会福祉学実践の本質を問う観点（立場）について、各自がその仮説提示をすることができます。

■授業の概要

社会福祉学研究、及び社会福祉学実践の根源的課題について考究します。“社会福祉”は、歴史的には、(日本に限定しても) 慈恵、慈悲、救済事業、慈善事業、感化救済事業、社会事業（経済保護事業を含む）、及び厚生事業、社会福祉事業等も名称変更を経ながら、現在の社会福祉の形成に至っています。その過程では、“社会福祉”は社会政策や社会保障、更には、公的扶助との概念が交錯、あるいは相互関連しながら、一見わかりやすく（例えば、人間の「幸せ」等という言説）、されど説明し難い概念と言えます。

さらに社会福祉士等の国家資格化とそれへの対応としての社会福祉教育（ソーシャルワーク教育）は、「社会福祉」事象に関する知識が標準化され、実習・演習の一定の質の向上があったと評価できます。しかし、国家試験が学部教育においては、結果として用語・術語の学習に留まる状況があり、研究面では、とりわけ本質的考究を目指す研究の低迷・停滞は当然の帰結といえるかもしれません。そのうえで、大学院における教育研究が設定されていると考えることができます。

この授業のオンデマンドにおいては、社会福祉学研究、及び福祉実践の基礎的な用語・術語の考察、つまり再考・再吟味を行い、各自がそれを再検討・批評する内容とします。

以上を通して各自の社会福祉観の仮説提示に繋がるのが目的です。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	現代社会における社会福祉学研究の課題を一つ取り上げ、それを論評してください。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 ()
課題 2 (事後課題)	自らの実践、経験を含め、あわせて社会福祉学の先行研究を援用しながら、自らの社会福祉観の仮説を提示してください。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】 在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレ

ポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

現代社会の諸問題のうち何を社会福祉学の課題とするのか、否か、が社会福祉学を研究する上で、重要な分岐点となります。それはとても難しいことですが、社会福祉学の対象認識に関わる問題です。広く社会状況の変貌と諸科学の動向をも概観しながら、社会福祉学の対象を見つけてください。何を「社会福祉学の対象とするか?」、その問いを自らが見出し設定してください。ご自分の研究課題（修士論文のテーマ）とも関連しながらまとめることをお勧めします。

課題2 アドバイス

社会福祉学を学ぶために最も重要な社会福祉観を借りものではなく、自らのものにするために、ご自分の経験を大切にしながら、また、あわせて先行の理論研究も学びながら、できうだけご自分の言葉で述べてみてください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉学とは何か	学問、科学、主体性、社会事業史研究	社会福祉実践（ソーシャルワーク）と社会福祉学研究はいかに関わるのか、「社会福祉原論」の必要性を考えてください。 *必読文献『社会福祉学』「序章」を精読ください。
2	英米におけるソーシャルワーク	慈善事業、博愛事業、救貧事業、社会改良、ソーシャルワーク	「ソーシャルワーク」の成立について英米の展開のなかで全体像を捉えてください。 *必読文献『社会福祉学』「英米におけるソーシャルワーク」を精読ください。
3	日本におけるソーシャルワーク	隣保相扶、制度化、恤救規則、感化事業、社会福祉の普遍化、ソーシャルワーク	英米のソーシャルワークの展開を踏まえて、日本社会における社会福祉とソーシャルワークについて全体像を捉えてください。 *必読文献『社会福祉学』「日本におけるソーシャルワーク」を精読ください。
4	福祉国家の形成と危機	救貧法、ナショナル・ミニマム、現代福祉国家、福祉多元主義、条件整備団体(国家)、第3の道	生活支援を考える前提としてまずは現代国家の役割と機能は大きく、それは福祉国家としての傾向をおびます。その形成と危機について理解されてください。 *必読文献『社会福祉学』「福祉国家の形成」「福祉国家の危機と再編」を精読ください。
5	社会福祉の対象	対象の意味、貧困・低所得、ウェルビーイング、「障がい」観、「老い」、コミュニティ	社会福祉の対象理解と対象者理解は異なります。いかに異なるかについて整理検討し、理解されたうえで社会福祉の対象について考えてみてください。 *必読文献『社会福祉学』「第3部社会福祉の焦点」の全部または何れかの章を精読ください。
6	社会福祉と社会保障	社会保障制度、所得保障、医療保障、負担と選択	社会福祉は社会保障制度といかに関連するかについて理解されてください。その前提として憲法25条や社会保障制度審議会による勧告や答申との関連性も踏まえて理解されてください。 *必読文献『社会福祉学』「第4部社会保障の制度と政策」の全部または何れかの章を精読ください。
7	社会福祉の方法	ニード(必要)、運営体制、権利擁護	社会福祉を権利として受け取るための方法について理解されてください。 *必読文献『社会福祉学』「第5部社会福祉サービスの政策と運営」の全部または何れかの章を精読ください。
8	レポート課題1の作成(その1)	基本文献、基礎史資料、先行研究	レポート課題1の作成を目指して、基本文献及び基礎史資料を蒐集してください。
9	レポート課題1の作成(その2)	批評、推敲	レポート課題1の作成を目指して、渉猟・蒐集の文献史資料を批評してレポート作成を進めてください。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
10	基本文献・史資料を読む①	精読・精査	各自の研究テーマ・研究課題にもとづく基本文献を渉猟・蒐集し精読してください。
11	基本文献・史資料を読む②	精読・精査	渉猟・蒐集した基本文献を取り上げた理由を含めて文献批評してください。
12	先行研究を読む①	精読	各自の研究テーマ・研究課題にもとづく先行研究を渉猟・蒐集し精読してください。
13	先行研究を読む②	精読	渉猟・蒐集した先行研究を取り上げた理由を含めて先行研究を批評してください。
14	レポート課題2の作成(その1)	先行研究 省察 内省	レポート課題2の作成を目指して、基本文献及び先行研究を踏まえて立論してください。
15	レポート課題2の作成(その2)	推敲	レポート課題2の作成を目指して、推敲してください。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：4時間以上)

社会福祉学研究における、現時点での各自の研究テーマ・研究課題に関する基本文献及び先行研究を蒐集し、なぜそれを研究テーマ・研究課題とされたかを今一度問い直されてみてください。スクーリングではA4用紙1枚程度にまとめて発表いただきます。提出は、対面スクーリング開始日までを目処とします。

対面授業時に、各自の設定した研究テーマと研究課題について報告し、全体討議を行います。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	「福祉」と「社会福祉」について考える	オンデマンド
2	愛他理念と福祉実践	オンデマンド
3	「社会福祉」認識の三段階論	オンデマンド
4	社会福祉の現代的形成	オンデマンド
5	戦後日本社会と社会福祉	オンデマンド
6	社会福祉学研究と研究方法論	オンデマンド
7	社会福祉の目的論	対面
8	社会福祉の対象論	対面
9	社会福祉の方法論	対面
10	社会福祉の学問論	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：4時間)

スクーリングで学ばれたことを機縁とされ、社会福祉原論に関する先行研究、並びに各自の人生経験(「福祉」や「社会福祉」に限定せず、仕事や日常生活全般を通して)等をも振り返りながら、自らの社会福祉観をまとめてみてください。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート(15%)、課題2レポート(15%)
- ・スクーリング(70%)

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人『社会福祉学』(有斐閣、2011年)
- 2) 岡村重夫『社会福祉原論』(全国社会福祉協議会、1983年)

3) 孝橋正一『新・社会事業概論』(ミネルヴァ書房、1977年)

1) は、“社会福祉学”の全体像をおさえることができる文献といえます。社会福祉学研究に自らの研究を位置づけるためにも、この機会に、是非ともこの文献に当たってください。

2) 3) は、日本の社会福祉理論の代表的論者による理論概要書で店頭であれば入手できる文献です。その他参考文献は、オンデマンド時に配信しますレジюме（拙稿）に記載しております。